

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 8 市民が自己を高め、生きがいをもって暮らせる

行動目標 8-1 市民の芸術・文化活動が高まる

(所管課名 教育委員会博物館)

任務

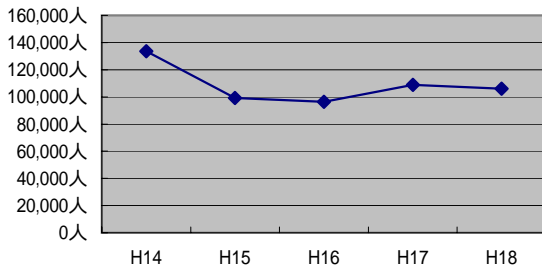
市民の創造性を高め、郷土を大切に作る心や科学する心を育み、よりよいまちづくりや未来を考える場を提供する。

任務の成果・活動指標の推移

博物館の利用者数

H14実績	133,624人
H15実績	99,224人
H16実績	96,458人
H17実績	108,752人
H18目標	106,000人

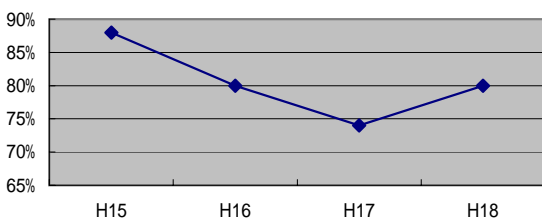
博物館の利用者



博物館の観覧者満足度(観覧者アンケート調査結果)

H14実績	-
H15実績	88%
H16実績	80%
H17実績	74%
H18目標	80%

博物館の観覧者満足度



指標の説明

任務目的を達成するためには、なるべくたくさんの人に利用していただき、満足していただく必要があることから、観覧者や各種催し物参加者などの博物館利用者数と観覧者アンケートによる満足度を掲げた。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

展覧会については、この地域に関する企画に加え、市民のニーズに沿った多様な企画を行ってきた。観覧者数は、平成16年度は29,498人(平成15年度比+1,085人)であったが、平成17年度は26,940人(平成15年度比-1,473人)と減少した。満足度も低下傾向にある。

プラネタリウムの観覧者数は、平成16年度は32,333人(平成15年度比-2,258人)であったが、平成17年度は子供に人気の高いキャラクター番組の放映や新たな番組の開始、学校・園からの団体見学の増加などにより42,519人(平成15年度比+7,928人)と、開館以来最高の成果を残すことができた。満足度は79%であった。

平成18年度

展覧会については、要望の強い自然科学や美術に関する特別展を行い、さらに学習支援展示をより充実させることにより、観覧者数及び満足度の向上を目指す。

プラネタリウムについては、新たにプロジェクターを導入し、より多彩な番組作りを行う。また、アロマを利用した新番組により、新たな客層を開拓する。利用の少ない中学生についても、移動式プラネタリウムによる出前授業や中学生対象の新企画(宇宙塾)により集客増を図る。

これからの課題、施策等展開の方向性

市民のニーズに応える企画を目指してきたが、より多くの市民に利用してもらうには、潜在ニーズを掘り起こすような、既存の枠に捕われない独創的な企画が必要である。博物館の社会教育施設としての役割を再認識し、市民の実際の生活に即する文化的教養を高め得るような企画を年次的に計画できるよう検討する。

より効率的な運営の手段として、指定管理者制度の導入の可否について平成19年度までに結論を出す。

開館後12年を経過し、展示設備の老朽化及び時代の要求に応じた展示形式・内容への変更のため、常設展の改修を検討していく。